

疫学情報 2019年10月23日分

<http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2019/10/17/17.html>

報道発表資料

2019年10月16日 東京都福祉保健局

デング熱の国内感染症例について

令和元年10月10日、都内の医療機関から海外渡航歴がないデング熱患者2名の発生届が提出されました。調査の結果、都外で感染したと推定されています。

患者の概要等について、以下のとおりお知らせします。

1 患者の概要（2名は、同じ学校の生徒です）

ア 患者A 年齢：10代 性別：男性

患者の状況

発熱、頭痛、骨関節痛、白血球減少、血小板減少で都内医療機関に入院 既に症状は消失し、退院

経過

9月18日から20日 奈良・京都へ修学旅行

9月27日 発症（発熱）都内医療機関A受診

9月28日 医療機関A再診

9月29日 都内医療機関B受診

10月1日 医療機関B再診、都内医療機関Cを紹介され入院

10月10日 退院、検査により陽性と判明、発生届提出

イ 患者B 年齢：10代 性別：女性

患者の状況

発熱、発疹、白血球減少、血小板減少で都内医療機関に入院 既に症状は消失し、退院

経過

9月18日から20日 奈良・京都へ修学旅行

9月26日 発症（発熱）都内医療機関D受診

9月30日 都内医療機関E受診

10月1日 医療機関E再診、都内医療機関Cを紹介され入院

10月6日 退院

10月10日 検査により陽性と判明、発生届提出

※患者・御家族の人権尊重・個人情報保護に御理解と御配慮をお願いします。

2 推定感染地域

疫学調査により、以下のことが判明しています。

デング熱の国内感染は極めてまれなことから、修学旅行で訪れた奈良市内又は京都市内でデングウイルスを保有している蚊に刺されて感染した可能性が疑われます。

発症日から、両名の感染は同時期と考えられるが、感染したとみられる期間（発症前14日から発症前2日）に両名が行動を共にした場所は、学校と修学旅行のみ、修学旅行では、同じ

班で行動、学校の関係者で他にデング熱患者は確認されていない

これらについては、既に、関係自治体に対し情報提供を行っており、現在、各自治体において、対策を進めています。

<http://www.env.go.jp/press/107330.html>

令和元年 10 月 10 日

環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室
関東地方環境事務所野生生物課

東京港青海ふ頭におけるヒアリの確認について

東京港青海ふ頭において、9月10日に特定外来生物ヒアリ（*Solenopsis invicta*）が確認されたことを受けて（※）、環境省では、東京都の協力のもと、青海ふ頭の周辺地域を含めて調査を実施しています。 ※ 令和元年9月12日報道発表

そのうち10月7日に実施した調査において、コンテナヤード内で疑わしいアリが確認され、専門家による同定の結果、同日、特定外来生物ヒアリ（*Solenopsis invicta*）と確認されましたので、お知らせします。

舗装の隙間から土中への出入りが確認されたことから、10月9日に詳細な調査を実施し、殺虫処理を行うとともに、確認地点周辺に殺虫餌（ベイト剤）を設置しています。

平成29年6月の国内初確認以降、これまでのヒアリの確認事例は令和元年10月10日（木）現在で14都道府県、計45事例です。

1. 経緯

10/7 環境省が実施するヒアリ確認地点周辺調査（東京港青海ふ頭）において、調査事業者が、コンテナヤードの舗装の継ぎ目の土が溜まった部分にヒアリと疑わしいアリ数十個体を目視で確認。継ぎ目の下部の土中への出入りも確認。関東地方環境事務所に通報するとともに、専門家による同定を実施。当該アリについて、専門家がヒアリであることを確認。

10/9 専門家、調査事業者、東京都及び環境省の職員が現地を確認し、防除を実施。

防除は、専門家がコンクリート舗装の継ぎ目の土砂を掘り起こしながら確認した個体を殺虫。ヒアリの出入りが確認された箇所に殺虫剤（液剤）を集中的に散布・注入。周辺に殺虫餌を設置。

2. 今回確認されたアリについて

東京港青海ふ頭において確認されたアリ（防除時を含む）は、ヒアリの働きアリ300個体以上、有翅女王アリ20個体、幼虫約10個体です。

3. 今後の対応

引き続き、発見場所において目視及びトラップの設置による調査を東京都と協力して実施するとともに、周辺の確認調査をより一層強化して実施する予定です。

なお、関東地方環境事務所から、東京都に対して、以下を依頼しています。

・ヒアリと疑わしいアリをコンテナや積荷で確認した場合は、密閉等により逸走を防ぎ、完全に駆除等が確認されるまでは移動を避けるよう留意するとともに、その点につき関係者に

も徹底を依頼すること

・今回ヒアリの確認があったことから、コンテナヤード及びコンテナの保管場所及びその周辺の点検等を適宜実施すること。

・今後、環境省等が実施する調査に協力すること

4. 疑わしいアリの発見時の対応について

疑わしいアリの発見された方は、以下に留意するようお願いいたします。

＜事業者の皆様へのお願い＞。

コンテナの開封時等にヒアリやアカカミアリと疑わしいアリの発見した場合、まずは刺激を避けつつ、コンテナのどの箇所にもどの程度の生きたアリ類がいるか等、状況を確認してください。

多数の生きたアリ類の集団がいる（予想される）場合は、コンテナの扉を閉めて逃げ出さないよう静置してください。そのうえで、関係機関（港湾管理者、地方公共団体、環境省地方環境事務所等）に速やかに連絡し、取り扱いについて相談してください。可能であれば、強粘着の布ガムテープでコンテナの目張りをするなど、アリが逃げ出さないよう対応してください。

アリ類が少数しかおらず、逃げ出す恐れのない場合は、市販のスプレー式殺虫剤等でその場で駆除してください。その上で、関係機関に速やかに連絡し、取り扱いについて相談してください。

詳しくは、環境省の「ヒアリの防除に関する基本的考え方 Ver.2.0」の P.16～20 を参照してください。

http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/file/hiariboujo_Ver.2.0.pdf.

＜一般の皆様へのお願い＞。

ヒアリやアカカミアリと疑わしいアリの発見した場合や、ヒアリやアカカミアリの特徴等一般的な問合せ、健康被害の問合せ等については、「ヒアリ相談ダイヤル」を御利用ください。

・受付曜日：7月～9月 土日祝を含む毎日。

10月～3月 月・水・金（ただし12月29日～1月3日を除く）。

・受付日時：午前9時から午後5時。

・ヒアリ相談ダイヤル 0570-046-110。

令和元年7月1日からはチャットボット（自動会話プログラム）による情報提供や相談受付等を行っています。以下の URL から、24 時間、365 日御利用いただけます。

「アリーのヒアリ相談チャットボット」。

http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/05_contact/index.html.

ヒアリの詳しい特徴などについては下記を参照してください。

「特定外来生物ヒアリに関する情報」。

<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiari.html>

https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/what_we_do/health-emergencies

WHO 神戸センター

災害・健康危機管理

地震、津波、台風、洪水などの自然災害は、各国の保健・社会システムに多大な影響を及ぼします。災害に備えるため、また、災害発生時、復旧・復興時に適切に対応するためには、科学的エビデンスの構築が重要です。自然災害に対する健康危機管理に関する研究を通じて、各自治体、地域、国レベルでの健康危機管理に貢献していきます。

災害・健康危機管理に関する WHO 神戸センターの研究は次の 3 つの分野に重点を置いています。

自然災害が生存者・被災者に与える心理社会的影響

自然災害が生存者・被災者に与える心理社会的影響は、特に被災者の長期的アウトカムの観点から、重要なテーマの一つです。WHO 神戸センターは災害研究の第一線の専門家と協力しながら、より良い災害後のメンタルヘルスマネジメントに必要な知識ギャップや、対策の特定に取り組んでいます。

災害後の健康データ管理の革新

国レベル、地方レベルでの危機対応を最適化していくためには、災害後の健康データ管理の革新が必要です。WHO 神戸センターは、世界各国の研究者と連携しながら、新たに標準化された災害後のデータ収集法について評価研究を行い、将来の政策に応用していきます。

災害・危機管理に災害弱者の視点を包摂すること

災害・危機管理に災害弱者の視点を包摂することは、自然災害後の公平性とレジリエンスを実現するために不可欠です。WHO 神戸センターは世界各国の研究者と協力し、高齢者や障害者などの災害弱者のための効果的で実行可能な災害・健康危機管理戦略を立案していきます。

https://extranet.who.int/kobe_centre/sites/default/files/pdf/2018_jul_development_of_specific_care_strategies_ja_0.pdf

災害後の人々の健康維持・回復に向けたケア戦略の開発

研究者名・所属 主導研究者：山本あい子教授
兵庫県立大学 地域ケア開発研究所

https://extranet.who.int/kobe_centre/sites/default/files/pdf/2018_jul_longterm_psychosocial_impact_ja_0.pdf

災害後の中長期的心理社会的影響に関する研究

研究者名・所属 主任研究者：金 吉晴
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 成人精神保健研究部長
災害時こころの情報支援センター長